

平成30年度 自己評価【分掌・学科・学年】

A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

| | 重点目標 | 具体的取組事項 | 評価指標(到達したい状況・状態) | 評価基準 | | | 達成値: | 評価 | 反省及び次年度への課題等 | 学校評議員評価 |
|-------|-----------------------|--|--|------|---|---|---|----|--|---------|
| | | | | A | B | C | | | | |
| 総務部 | PTA活動の充実 | PTA会報等の発行により、保護者への情報発信を行う。 | PTA会報等についての保護者アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 100% | A | 実質的な活動が農業祭のPTAの店だけであるので、企業訪問や学校訪問等にも広がりを持たせる必要がある。 | A |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 総務部 | 広報活動の強化 | ホームページ更新講習会を複数回開きと同時に、担当部署に働きかけながら、更新回数を増やす。 | ホームページに関する保護者アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 90.2% | A | 分掌・部活動によって更新の温度差がある。更新作業に習熟してもらい働きかけが必要である。 | A |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 教務部 | 自己管理能力の育成 | 保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をとおして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。 | 生徒アンケートで遅刻0に向けて努力したと回答した生徒の割合 | A | B | C | 94.0% | A | 遅刻に対する生徒の意識は年を追うごとに高まってきており、さらに皆勤という高い目標を目指している。 | A |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 教務部 | キャリアプランニングの推進 | 漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各科専門資格への挑戦をとおして生徒のキャリアアップに努める。 | 1,2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合。3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合。 | A | B | C | 1年:60.5 2年:83.8 3年:94.1 (1/25 現在) | B | 全員受験のものや希望者受験のものなどあるが、各教科・各学科において、組織的な指導が行われ、成果があがった。また、生徒の資格取得に対する意識も年々高くなってきている。 | B |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 生徒指導部 | 校外外で積極的に自ら挨拶をする | 生徒会、風紀委員、教員と毎朝の挨拶運動を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。 | 校外外で挨拶ができていると答えた生徒、教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 84% | B | 生徒と教員に差がある。引き続き教員も挨拶に意識を持ちながら全校集会、学年集会などで呼びかけていく必要がある。 | B |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 生徒指導部 | 自転車の交通マナーの強化 | 全校集会、学年会、自転車小屋などでマナーや命を守ることを呼びかけ、学期に1回の街頭指導について連携しながら注意・指導をしていく。 | 交通マナーを意識し、自転車の安全運転で登下校をしていると答えた生徒アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 97% | A | 各自意識をしながら交通マナーについて注意をしているようである。自分の命を大切にすることについて今後とも指導が必要である。 | A |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 進路指導部 | 体系的・計画的な進路指導体制の構築 | 進路ガイダンス・進路ミュージカル・各種テスト・CCP(1・2年生)・面接指導(3年生)等は進路決定に役立っている。 | 生徒アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 95% | A | 各学年の満足度は1年91%、2年95%、3年98%である。早期の進路意識の向上のためには、1年生の満足度が向上するように、ガイダンスやCCPの内容を再検討が必要。 | A |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 進路指導部 | 進路検討会や進路希望調査を活用した進路指導 | 進路検討会や進路希望調査は生徒理解に役立ち、進路決定を促している。 | 教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 98% | A | 検討会や希望調査することが生徒が進路を考えるきっかけになるだけでなく、先生方へ情報をうまく伝えることが必要。2月の検討会が効率的かつ充実した会議となるよう工夫が必要。 | A |
| | 90% | 80% | 70% | | | | | | | |
| 健康相談部 | 保健関連行事の適切な運営 | 健康診断や健康教育、安全点検や環境整備作業など、生徒の健康管理や良好な教育環境の維持に資する各種行事を適切に行う。 | 教職員アンケートの数値(A+B)が80%以上 | A | B | C | 90.2% | A | 各種行事、概ねスムーズに実施されたと認識している。来年度、ワックスがけについては、アンケートの意見を参考に総体時期に実施することとした。 | A |
| | 80% | 70% | 60% | | | | | | | |
| 健康相談部 | 教育相談活動の充実 | 関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。 | 教職員アンケートの数値(A+B)が80%以上 | A | B | C | 90.2% | A | ケース会議、教育相談委員会の開催で生徒の情報共有を図り、早期対応に努めることができた。また、女子生徒も多いことから女性のSCを要望し、今年度から新たに女性のSCさんになった。相談を希望する生徒も多く、新たな視点で教育相談に関わっていただき、生徒理解が深まった中でケース会議を行うことができた。 | A |
| | 80% | 70% | 60% | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-------|------------------------|---|--|---|---|---|------------------|---|--|---|
| 図書研修部 | 授業や研究に役立つ資料の選定・収集に努める。 | 出張図書館や図書館ニュースを通じて、図書館の資料を紹介する。図書館運営委員会を通じて、先生方のリクエストに応える。 | 教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 95.9% | A | 教職員向け広報の発行や、有料データベース(農文協/朝日新聞)の導入など、新たな試みで、情報提供に努めた。 | A |
| | 生徒の豊かな感性を育む読書指導を行う。 | 図書委員会主催のイベントや図書館ニュースを通じて、生徒の読書活動を支援する。 | 生徒の「図書館の設備や雰囲気は利用しやすい」というアンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | | | | |
| 寮務部 | 基本的な生活習慣を身に着ける指導を行う。 | 寮生への定期的な指導 | 教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | 100% | A | 寮生は時間厳守で行動しているが、寮内の様子について「わからない」という回答が多かった。寮内の生活について積極的に周知していく必要がある。 | A |
| | 寮内外の環境整備を行う。 | 寮内外の定期的な掃除を行う。 | 教職員アンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | | | | |
| 農場部 | 研究活動を推進する | ①実験・実習の積極的な展開 ②生徒自らが課題解決学習に積極的に取り組む | 教職員アンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | 82.4% | B | どの生徒も課題研究を通じて専門科目の実験・実習に取り組むよう、農業クラブ活動を通じて支援する | B |
| | 専門科目関連への進路実現 | ①専門関連への就職・進学指導 ②農林大学校への進学指導 ③4年生大学への進学指導 | 生徒・教職員の「専門関連への進路実現」を問うアンケートの数値(A+B)が90%以上 | A | B | C | | | | |
| 植物科学科 | 自己管理能力の育成 | ①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導 | 生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | ①100% ②98.2% | A | 生徒の自己評価と教員の生徒への評価がマッチングしていない。タイムリーな指導を継続していきたい。 | A |
| | 自ら学ぶ姿勢の育成 | ①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導 | 生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | | | | |
| 環境科学科 | 自己管理能力の育成 | ①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導 | 生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | 95.5% | A | ヘルメットをかぶる習慣などの安全管理について生徒の意識を高めていきたい。 | A |
| | 自ら学ぶ姿勢の育成 | ①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導 | 生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | | | | |
| 食品科学科 | 自己管理能力の育成 | ①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導 | 生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | ①95.3% ②98.4% | A | 始業前等の集合等5分前には集合し授業へ向けた体制を整え授業へ取り組むことが出来た。今後も継続したい。 | A |
| | 自ら学ぶ姿勢の育成 | ①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導 | 生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | | | | |
| 動物科学科 | 自己管理能力の育成 | ①時間厳守の徹底 ②授業に相応しい服装指導 | 生徒の「自己評価12、14」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | ①93.8% ②99.1% | A | 専門教科での姿しかわからない面があるが、見える範囲では意識を持って行動している。継続した指導をしたい。 | A |
| | 自ら学ぶ姿勢の育成 | ①課題研究授業の充実 ②資格取得に向けての指導 | 生徒の「自己評価16」「学校評価6」を問うアンケートの数値(A+B)が85%以上 | A | B | C | | | | |

| | | | | | | | | | | |
|-----|-------------------------------------|--|---|-----------|----------|----------|-------|---|--|---|
| 一年部 | 目標に向けて行動を起こす(自らを育てる)人間力を持った生徒を育成する | 各クラスや学年集会等での指導 | 生徒の「自己評価2・4・9・10・11・14」を問うアンケートの数値(A+B)が80%以上 | A 80% | B 70% | C 60% | 82.8% | A | 「平素から学習」が約25%、それ以外はすべて90%を超えたことから、学習を習慣化するための意識づけや対策が課題。 | A |
| | 学ぶ意義を知り、地域へ視野を広げようと行動する人間力を持った生徒の育成 | マナトレを中心とした学習への取り組み、専門科目への取り組み | 「自己評価7・8・15・18」を問うアンケートの数値(A+B)が80%以上 | A 80% | B 70% | C 60% | 87.5% | A | マナトレなど決まった学習や部活動への取り組みは良好である。各教科や学科毎の活動を通して、資格取得などに向けて意欲的に取り組ませたい。 | A |
| 二年部 | 自他の感情や生命を大切にす る人間力の育成 | 各クラスや学年集会での指導 | 生徒の「自己評価9～15」を問うアンケートの数値(A+B)が80%以上 | A 80% | B 70% | C 60% | 92.0% | A | 人間関係の基礎となる挨拶について繰り返し指導を行った。昨年度よりも挨拶を心がける生徒の数が増えた。部活動に積極的に取り組む生徒の数が減ったことは今後の課題である。 | A |
| | 進路実現に向けた、自ら学ぶ 人間力の育成 | マナトレへの取り組み | マナトレの認定テストに最終的に合格した生徒の割合 | A 80% | B 70% | C 60% | 84.2% | A | 進路実現の基礎となる学力向上の大切さを学年会で話をした。マナトレに取り組む姿勢は概ね前向きだが、特に数学の割合計算を苦手に行っている生徒が多いという結果が出た。 | A |
| 三年部 | 最高学年として他の模範となる生活態度を実践できる生徒 | 学校生活だけでなく、今後の生活においても大切なこの7項目(生徒アンケート9～15)を朝終礼時や学年集会にて話し、徹底させる。 | 生徒の「自己評価9～15」を問うアンケートの数値(A+B)が90%以上 | A 90% | B 80% | C 70% | 94.2% | A | 仲間を意識しながら緩めずに行動することを繰り返し伝え続けた。挨拶、服装頭髪、机の整理整頓等個別の指導を常に行ったわけではないが、結果としては二学期の出席率も含めて昨年度の達成値を超えることができた。今年度は全体の意識の高さはもちろんであるが、進路が決まる時期が遅かった生徒が多かったことが二学期緩まず過ごせた一因であると考えられる。 | A |
| | 進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒 | 進路ガイダンス等に積極的に参加し、進んで進路実現に努力する。 また、週に1度の学年会にて全体・個人に対してのミーティングを行う。(進路指導部長も毎回参加する) | 進路決定の割合 | A 100% | B 98% | C 96% | 98.7% | B | 進路指導部と連携しながら学校全体で進路実現に向けた取り組みを行うことができた。校長先生にも学年集会で進路についてのお話をいただいた。2年生の2月に進路検討会を行っておらず、進路決定の遅れを心配していたが、結果として、自分の目指す進路に向けて粘り強く取り組む生徒が多かったように感じている。 | B |